



2026 年 4 月 28 日

エレベーターロボットによる 利用者への情報提供および利用者同士の関係構築促進 に係る実証実験

【5/8(金)10 時～@けいはんなプラザ】

❖ 概要

大阪大学 大学院基礎工学研究科の内田 貴久^{うちだ たかひさ} 助教(理化学研究所 情報統合本部 ガーディアンロボットプロジェクト 研究員兼務)および理化学研究所 情報統合本部 ガーディアンロボットプロジェクトの
港 隆史^{みなと たかし} チームディレクターのグループは、研究開発の一環として、5 月 8 日(金)10 時から、けいはんなプラザ(京都府精華町)内のエレベーターに対話ロボットを設置し、人同士や人とコミュニティーの関係性に与える影響を調べる実証実験を実施します。

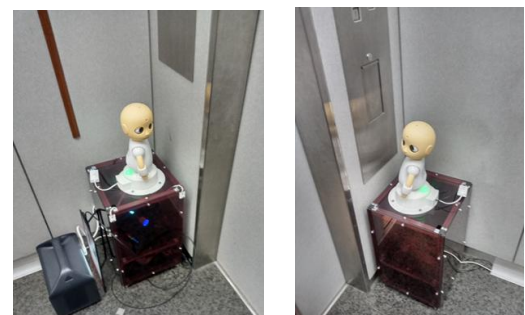
❖ 実証実験期間・場所

【日時】 2026 年 5 月 8 日(金)～5 月 22 日(金)
10:00 ～ 16:00

【場所】 けいはんなプラザ ラボ棟東側エレベーター
(京都府相楽郡精華町光台 1 丁目 7)

<https://www.keihanna-plaza.co.jp/access/>

【対象者】 エレベーターをご利用の方



エレベーター出入口の左右にロボット「コミュー」を配置し、ロボット同士が対話する。

❖ 実証実験の目的

ロボットが対話する相手は、人だけにとどまらず、別のロボットも対象になり得ます。ロボット同士が対話する場合、ロボットが人に直接話すわけではありませんが、その対話内容は傍観者である人にも影響を与えます。本研究では、その影響を積極的に利用することを考えています。具体的には、人同士や人とコミュニティーの関係性の構築・促進の効果があると考えています。

人同士の関係性については、ロボット同士の対話が、人同士の関係構築を促進すると考えています。特にエレベーター内では、まだ親しくない人同士が乗り合わせると、気まずい雰囲気になることがあります。ロボット同士の対話が、このような心理的現象を緩和し、人同士の関係構築を促進することが考えられます。

人とコミュニティの関係性については、ロボット同士の対話による情報提供が、人のコミュニティ参加を促すと考えています。公共スペースの周辺情報や、イベント情報をロボット同士の対話に織り交ぜ、周囲の人に提示します。そのような情報提供が、ロボットが人に直接話しかける場合に比べ、主体性および満足度が高く、人のコミュニティ参加を促進することが考えられます。

上記の課題が顕著に現れる状況の1つとして、本研究開発では、けいはんなプラザ ラボ棟東側エレベーター4 基内の1 基に対話ロボット「コミュ」を設置する実証実験を実施します。実証実験では、ロボットの対話を観察した人に対するアンケート調査により、雰囲気への印象や他者への対話意欲の変化を調べます。その結果も踏まえ、人と人をつなぐために、対話ロボットに必要な機能の検討に取り組みます。

なお、本件実験中のロボットの動画・写真の撮影は、差し支えありません。

❖ 特記事項

本実証実験は、内田 貴久 助教が採択された JST 戦略的創造研究推進事業(さきがけ)の一部としても実施いたします。

❖ 国立研究開発法人理化学研究所 情報統合本部 ガーディアンロボットプロジェクト

理化学研究所は、最先端の科学技術をリードする我が国の自然科学の総合研究所として、物理学、工学、化学、数理・情報科学、計算科学、生物学、医科学などに及ぶ広い分野で研究を進めています。

けいはんな学研都市のガーディアンロボットプロジェクトにおいて、人と AI・ロボットが柔軟に共存する未来社会に向け、心理学、脳科学や認知科学と AI 研究の強みを相乗的に取り入れた次世代ロボット(「脳×AI」)の社会実装に向けた研究開発を推進しています。

❖ 株式会社けいはんな

株式会社けいはんなは、関西文化学術研究都市建設促進法(昭和 62 年 6 月 9 日法律第 72 号)第 2 条第 5 項に定める文化学術研究交流施設「けいはんなプラザ」の設置及びその運営を行うことを目的とする株式会社で、主な事業として①ラボ棟、スーパーラボ棟、交流棟の賃貸・管理・運営および入居者の事業支援、②京都府立けいはんなホールの管理・運営(京都府との管理協定に基づく)、③けいはんなプラザホテルの経営を行っています。